

市民公開講座「いわき市民の皆様のための緩和医療」参加報告書

報告日：令和8年3月2日

報告者：いわきケアマネ協会理事 飯野 友博

1. 開催日時

令和8年2月21日 14:00～

2. 開催内容

【第1部】多職種による緩和医療の取り組み

第1部では、多職種による緩和医療の取り組みについて発表がありました。医師、薬剤師、理学療法士、社会福祉士それぞれの立場から、専門性を活かした支援内容や現場での関わりについて報告があり、緩和医療が一職種のみで完結するものではなく、多職種連携によって支えられていることを改めて実感しました。

ケアマネジャー部会からは、「緩和医療とケアマネジャーの役割—自宅で過ごすという選択を支える—」というテーマで発表を行いました。

- ① ケアマネジャーの対象者
- ② ケアマネジャーの仕事の紹介
- ③ ケアマネジャーの役割
- ④ 緩和医療で大切にしていること
- ⑤ 事例紹介

の①～⑤で講演させていただきました。

【第2部】緩和医療における院内の取り組みと課題

第2部では、各病院より院内における緩和医療の取り組みと課題について発表がありました。

- ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の重要性
- 患者の思いの実現に向けた支援
- 患者に寄り添う姿勢の大切さ

などについて具体的な取り組みが共有されました。

今回、市民の皆様に向けて講演を行う機会をいただき、自宅で過ごしていきたいと考えたときに「相談できる場所がある」ということを知っていただく大切さを改めて感じました。

また、緩和医療＝末期がんのみではなく、症状の緩和に努める医療であること、そしてその実現のために多職種で連携して支えていくものであること

とを再認識しました。

さらに、ACP の重要性についても改めて確認する機会となりました。

利用者一人ひとりの思いや価値観を大切に、早い段階から意思確認を行いながら支援していくことが重要であると感じました。

今後もケアマネジャーとして、利用者がその人らしく生活できるよう関わるとともに、ACP の大切さを少しでも伝えていけるよう努めていきたいと思えます。